向陽新聞
発行所
高知市春野町97
土佐高等学校新聞部
編集兼発行人　中山　剛吉

去るもの來るもの悩むもの

新制度完成の年
土佐中・二百五十名募集

本年四月新入生を迎えると高校中学を通じて新制度は完成する。來年度の新入生採用は二百五十名で高校には約十名の編入があるので生徒総数千六百名という彦大なものとなり同時に男女共学も全学年を通じて完全になる。一方着々復興しつつある校舎はこの三月に二十五坪の体育館が一棟完成するほか資金の調達のできしだい本館の復旧にもとりかかるはずである。戦火に校舎を焼かれて多くの学校を借りて行った分散授業、寒風の中にバラックの校舎で行った授業その他数々のつらかり思い出を秘めて、ここに本校は新しい出発の輝かしい第一歩を踏み出すわけである。

勉強のしかた

新入生のために—各科主任先生

希望に胸ふくらませて入学してくる新入生諸君のために、英語、数学、国語等各科主任の先生方をたずねて、勉強のしかたに関するお話をうかがった。以下はその要約である。

【英語】　広田先生

一、英語は国際語であって、勉学の基礎となるものだから、英語の上手な人は非常にとくである。

二、英語と上達する最上の道は、まずそのセンスに慣れること、それには文法や理屈は二の次として、生徒諸君の服装に関する学校の拘束の一環と見られ今後の同様期間の制定と共に注目される。

△—生徒部の見解—▽

中山先生談　ジャンパーは学生服にくらべると一段と格式の低いちかごろ相当流行し、費用が安くすむためオーバーの代用として作った人も多いようである。また作ったとたんに着用禁止令くらったという悲劇も生れている。これはオーバー、マフラー等に対する使用制限や下駄ばきの禁止のような生徒

初笑ひ三羽烏

——K先生の元旦日記——

小松博行

除夜の鐘を聞いてから余程の時間が経った。一時近くにもならう。好むと好まざるとに論なく、愈々廿七年である。

K先生、何を感じたのかひとり起きて、窓開として静まりかへった田舎家の二階で机に向ってゐる。珍らしくペンを走らせてゐるの考へて見ると、「〇（ゼロ）の暁」といふ訳本の扉の裏へ、在京の若い友人が創元社に一冊しか残ってなかったこの本を「理性と実存」と併せて土産に持ち帰ってくれた贈呈を書きつけてゐる。「〇（ゼロ）の暁」でも読んで、不完全ら独立を固復した新日本の船出が、前途必ずしも順風に乗らざるの自覚を新にする気かと思はれたが、ペンを擱くとパタリと伏せてしまった。今度は机上に雑然と積まれた書物の中から、歴史哲学者羽仁五郎氏の「経済史随想」を取り出すと、冒頭にあるゲーテと鉱山といふ随筆を読めて、頻に感心してゐる。ゲーテと鉱山の結び付きは兎に角、これを結び付けた動機に感心したのである。

この書の中に「知らず、日本の前途前か暗かを。唯余は読書に親しみ得る環境にある身の幸福を謝する」と幼稚な字で識すと、暫くぐさん母娘に宛てたウイスキーの壜に挿してある水仙を眺めたり、ウイスキーグラスに投げ込んである「Fさんの贈物の海花を弄ったりしてゐたが、やがて蒲団を被って臥してしまった。

田舎に元日の朝が訪れた。

七時に床を離れたK先生は、手水を使ふと早速例の『号ヘず受けざる者』を音読した。それから、旧制「土佐中」最後の卒業生と称する自嘲様は、いろいろ思い出もあると思います。吉本、中山先生とともにお詣を御願いします。【中山新聞部長の挨拶】

岩谷　僕たちの卒業で旧制土佐中も終りなんですが、吉本先生どう お考えですか…先生はずいぶんお古いでしょう…

吉本　大正…いや、昭和十一年からじゃから十七年間か。君らが入学したときはもう校舎は焼けておったか？…焼けたときはちょうどラジオが宿直じゃって、爆弾が落ちはじめたキニ、プールの上にあがって眺めてみると、ちょうどワシのうちのへんがあやない。学校は大丈夫と思ったら校長に許しを えて家へ向った。天神橋を渡るなり愛弟が落ちはじめて…（これより先生、家へかえり時計を池に投げこみ公園へ避難するまでをくわしくお話しになる）

不幸中の幸いは、ふだんから ワシの家内が避難するといっていた池も防空壕も、あとでみるとあたりの草にいたるまでコゲていたので女房を二匹ひろったようなものである。

丸山　高知駅からはなかなか汽車に乗れなくて旭駅までいってみるとおくれた。そこで電車、バスで山田までゆくと三時間目の授業だった。安岡先生が「小さい子供をこんな所へ連れて来おって、かわいそうじゃノウ…」（笑声）といって一、二時間目の欠席も消してくれた。

岩谷　昭和小学で夏休みの一週間授業を受けた。はじめて学校らしい所で勉強した。

岡林　最初の日があらしで水が一尺ほど床上まで上ってきた。

細木　そのあと校長と宮田先生（書記）が御苦労しそうで面目なく思っているわけです。

中山　僕は焼ける少しまえに土佐中へくることにきまっていた。焼けてから校長に「どうか？」と聞かれたが「男が一度約束をしておきながら……」（笑声）というわけで君逃（高三）といっしょに入ってきたわけだ。

校舎のない「土佐中」

岩谷　一学期の間は山田の小学へ通いましたね。まん中に大きな柿が立っている教室で勉強したが「山田小学時代」の思い出多……

丸山　高知駅からはなかなか汽車に乗れなくて旭駅までいってみるとおくれた。そこで電車、バスで山田までゆくと三時間目の授業だった。安岡先生が「小さい子供をこんな所へ連れて来おって、かわいそうじゃノウ…」（笑声）といって一、二時間目の欠席も消してくれた。

岩谷　昭和小学で夏休みの一週間授業を受けた。はじめて学校らしい所で勉強した。

岡林　最初の日があらしで水が一尺ほど床上まで上ってきた。

細木　そのあと校長と宮田先生（書記）が御苦労しそうで面目なく思っているわけです。

中山　僕は焼ける少しまえに土佐中へくることにきまっていた。焼けてから校長に「どうか？」と聞かれたが「男が一度約束をしておきながら……」（笑声）というわけで君逃（高三）といっしょに入ってきたわけだ。

校舎のない「土佐中」

岩谷　一学期の間は山田の小学へ通いましたね。まん中に大きな柿が立っている教室で勉強したが「山田小学時代」の思い出多……

丸山　高知駅からはなかなか汽車に乗れなくて旭駅までいってみるとおくれた。そこで電車、バスで山田までゆくと三時間目の授業だった。安岡先生が「小さい子供をこんな所へ連れて来おって、かわいそうじゃノウ…」（笑声）といって一、二時間目の欠席も消してくれた。

岩谷　吉本カマス、中山オンカンの授業は特異な存在だった。世の中にこんな面白い先生がよくもいたものだと…（笑声）

中山　あのころ、僕がニュース映画にでてみんなも写った。僕がブラッセルの博物館へ貝の標本を送ったというので…。

細木　そんなにえらい先生かと思ってびっくりした（笑声）

岩谷　吉本先生、印象に残っているような先生はいませんか？

岡林　岩谷なんかイタズラしたでしょう？

吉本　ワシは岩谷を叱ると仏様を思い出しますがね（笑声）四、五回で…。ワシは岩谷三兄弟を教えたが、やはりいちばんしが出来がよく…（岩谷君、両手をあげて大あわてに制す。一同爆笑）

細木　そら始まった（笑声）「うのも無理がいえたろうが、みんな在校時代の思い出をいろいろ語り合ったが、そうした時に私は、先生が正義道理にいかに厳粛であるかを知った。而も制に極さして施されている害である。私は、りりしいとか、男らしいとかいう言葉の附く可愛らしさである。これは単に先生が為めな感情の持主だからであろう。先生に接する人は、同僚も生徒も、目上も目下も男性も女性も、あらゆる人が親愛の情を寄せるであろう。人に好かれる人――先生はそういう人であると信じて疑わない。

岩谷　まえの土佐中は人数も少なかったし、金松生徒みんな顔も名前も知っていた。いまはまったく生徒間の親しみというものがなくてさみしい感じだ。

先生から卒業生へ

吉本　卒業生諸君にいうが、数学にせよ何にせよおもしろいことももちろん必要だが、教科書にあることだけから突っ込まれてもよいようにしておいてもらいたい。二次方程式の根を出す場合でも【卒業生側】丸山億　岩谷清水　細木大瀧　門脇秀夫　岡林幹雄

【先生側】吉本要　中山駿馬

出席者（敬称略）

【雑誌「筆山」文芸部で近く発行】はさきに雑誌名の変更を声明したが、やはり「筆山」がよいという多方面からの声に感名の変更をとりやめ近く「筆山」第六号（卒業生特集）を発行する。

最後の卒業生にきく

★★★★★大いに笑った座談会★★★★★

旧制「土佐中」最後の卒業生と称する自嘲様は、いろいろ思い出もあると思います。吉本、中山先生とともにお詣を御願いします。【中山新聞部長の挨拶】

岩谷　僕たちの卒業で旧制土佐中も終りなんですが、吉本先生どう お考えですか…先生はずいぶんお古いでしょう…

吉本　大正…いや、昭和十一年からじゃから十七年間か。君らが入学したときはもう校舎は焼けておったか？…焼けたときはちょうどラジオが宿直じゃって、爆弾が落ちはじめたキニ、プールの上にあがって眺めてみると、ちょうどワシのうちのへんがあやない。学校は大丈夫と思ったら校長に許しを えて家へ向った。天神橋を渡るなり愛弟が落ちはじめて…（これより先生、家へかえり時計を池に投げこみ公園へ避難するまでをくわしくお話しになる）

不幸中の幸いは、ふだんから ワシの家内が避難するといっていた池も防空壕も、あとでみるとあたりの草にいたるまでコゲていたので女房を二匹ひろったようなものである。

丸山　高知駅からはなかなか汽車に乗れなくて旭駅までいってみるとおくれた。そこで電車、バスで山田までゆくと三時間目の授業だった。安岡先生が「小さい子供をこんな所へ連れて来おって、かわいそうじゃノウ…」（笑声）といって一、二時間目の欠席も消してくれた。

岩谷　昭和小学で夏休みの一週間授業を受けた。はじめて学校らしい所で勉強した。

岡林　最初の日があらしで水が一尺ほど床上まで上ってきた。

細木　そのあと校長と宮田先生（書記）が御苦労しそうで面目なく思っているわけです。

中山　僕は焼ける少しまえに土佐中へくることにきまっていた。焼けてから校長に「どうか？」と聞かれたが「男が一度約束をしておきながら……」（笑声）というわけで君逃（高三）といっしょに入ってきたわけだ。

校舎のない「土佐中」

岩谷　一学期の間は山田の小学へ通いましたね。まん中に大きな柿が立っている教室で勉強したが「山田小学時代」の思い出多……